

# JSPS 国際戦略

(2013年5月策定)

## 背景

- ・学術研究のグローバル化、地球規模課題解決のための国際的な共同研究活動の必要性
- ・新興国による国家的戦略に基づく知の創造への投資増に伴う国際競争、国際的な優れた研究人材の獲得競争の熾烈化 等

### 「日本再興戦略」(25年6月14日閣議決定)

- ・国立大学における若手・外国人研究者の活用拡大
- ・意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与
- ・大学等の海外拠点の強化

### 「経済財政運営と改革の基本方針」

- ・基礎研究を含めた科学技術イノベーションを担う人材の育成
- ・多様な場で活躍できる人材、独創的で優れた研究者の養成

### 「第4期科学技術基本計画」

- 「科学技術・学術審議会国際委員会報告書」
- 「日本学術振興会の将来ビジョン検討会」

## 「日本学術振興会の学術国際活動に関する基本的な戦略（JSPS国際戦略）」

第3期中期計画(平成25～29年度)の5年間に「強固な国際協働ネットワークの構築」達成のため、4つの基本目標に沿って学術国際事業を再整理、事業の重点化を推進

### ① 国際的な共同研究等の促進

#### 【二国間】

- ・諸外国の学術振興機関等とのマッチングファンドによる国際共同研究支援を戦略的に推進
- ・マッチングファンド方式によらない、新興国等との新たな共同研究等のニーズに対応

#### 【多国間】

- ・ボトムアップ型の多国間共同研究の支援を強化

### ② ネットワークの形成 国際研究支援

- ・研究交流のニーズが高い/戦略的な重要性を有する国・地域の学術振興機関との協力を強化する一方、新興国等潜在的な研究交流ニーズが見込まれる国・地域へのネットワークを拡大

- ・多国間の学術振興機関のネットワーク(グローバル・リサーチ・カウンスル(GRC)など)の形成及び議論を主導

- ・振興会事業を終え帰国した外国人研究者のネットワーク化を促進し、将来的に我が国の研究者との交流促進につなげるための基盤(同窓会等)を整備

### ③ 世界的頭脳循環の推進とグローバルに活躍する若手研究者の育成

#### 【若手研究者が切磋琢磨する研究環境を創出】

- ・分野を越えて最先端の研究展開を促す、若手研究者を対象とする国際シンポジウム等の充実化

#### 【外国人研究者を招へい・定着促進】

- ・優れた外国人研究者・教員の我が国の大学等への定着を促すための外国人研究者の招へいを推進

### ④ グローバル化支援 大学等における研究教育環境の

- ・海外研究連絡センターを活用し、大学等の国際展開のための各種取組を支援

- ・世界から第一線の研究者が集まる国際的な研究拠点を形成するための国の施策を支援

### 相手国の地域に応じた事業展開

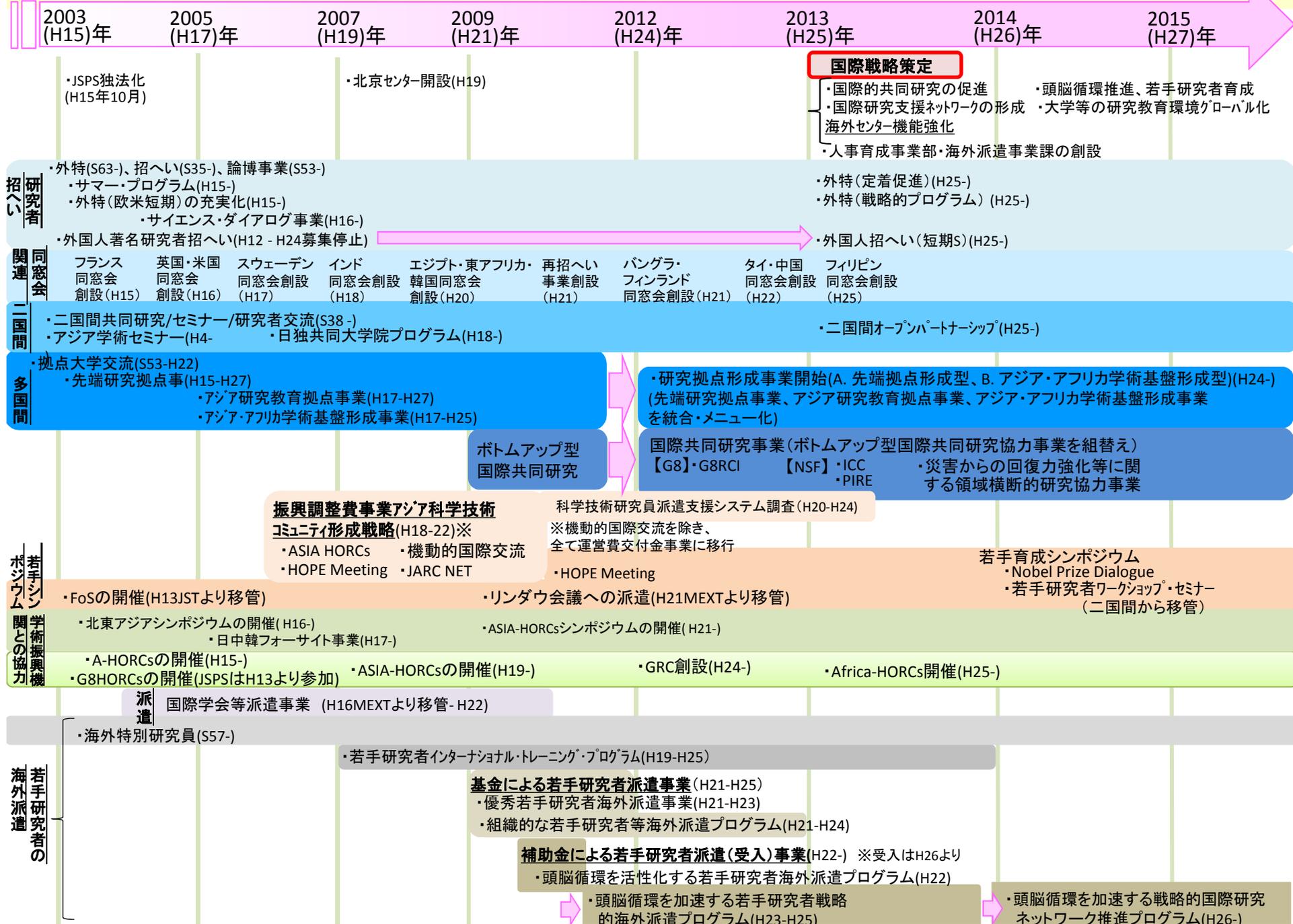
- ・国際共同研究パートナーとして連携を強化すべき相手国・地域
- ・今後重点的に学術国際交流の活性化を目指す相手国・地域 など

### 海外研究連絡センターの機能強化(世界各地に10カ所設置)

- ・学術交流の相手国となり得る全ての地域を各センターでカバーし活動(センター設置国外ではブラジル、インド、韓国、オーストラリア等に注目)
- ・日本の研究者や大学の情報発信、情報収集、相手国学術振興機関・大学等との協議・ネットワーク形成等を総合的にサポート

中期計画期間終了時に4つの基本目標の達成状況、事業の有効性、課題等の検証、評価を実施

# JSPS 国際事業の変遷



# JSPS 国際戦略に基づく各事業の位置付け

国際的な共同研究等の促進

個人の交流支援

グループの交流支援

機関支援

【二国間国際共同研究支援】

オープン・パートナーシップ  
共同研究/セミナー

覚書等に基づく共同研究・セミナー  
(日独共同大学院含む)

【多国間の国際共同研究支援】

日中韓フォーサイト

研究拠点形成事業

国際共同研究事業

世界的頭脳循環の推進、若手研究者の育成

【若手研究者研鑽機会の提供(イベント型)】

HOPE Meeting  
リンダウ派遣  
Nobel Prize Dialogue

FoS  
アジア学術セミナー  
若手研究者ワークショップ

【若手研究者研鑽機会の提供(研究交流型)】

海外特別研究員

頭脳循環

【外国人研究者の招へい】

外特(一般)  
外特(サマープログラム)  
外特(欧米短期)  
外特(戦略的プログラム)

外国人招へい研究者(長期・短期・短期S)

【外国人研究者の招へい】

外特(定着促進)

論文博士号取得希望者への援助

大学等の研究教育環境のグローバル化支援

海外研究連絡センター

日本の大学の国際交流活動支援

- ・事務所の共同利用
- ・大学職員の海外実務研修
- ・現地の学術情報の提供
- ・現地大学との交流のサポート

WPI

大学の世界展開力強化事業

国際研究ネットワークの形成

国際交流事業実施の基盤提供

【トップレベル(FA間)の協議】

A-HORCs G8-HORCs  
ASIA HORCs GRC  
AFRICA-HORCs

FAIによる国際研究協力を促進するための共通原則の確認等

【研究機関等の活動支援】

海外研究連絡センター

管轄国・地域を定めて戦略的に活動

【草の根・研究者ネットワークの支援】

事業経験者同窓会

海外の研究者データベースの作成(H26年度以降)

日本学術振興会国際交流事業一覧

(※平成26年4月1日現在)

事業の類型	事業名	事業概要	1件/1人当たり 支援内容	支援(実施)期間	(H25予算額) H26予算額	H24交流人数
国際的な共同研究の促進	二国間国際共同研究支援 (共同研究・セミナー)	個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームのネットワーク形成を目指して、他国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施経費を支援。	共同研究:100～500万円以内/年度 セミナー:120～250万円以内	共同研究:1～3年 セミナー:1週間以内	(875,723千円) 935,193千円	受入1,203人 派遣2,537人
	特定国派遣研究者事業	我が国の研究者が相手国の研究者を訪問し、研究、意見交換等を行うための経費を支援。	渡航費、滞在費等 (派遣国、対応機関による)	14日～2年間 (派遣国、対応機関による)		
	日独共同大学院プログラム	日独の大学が共同課程(プログラム)を設定し、大学院博士課程の学生や教員及びポストク等の若手研究者を相互に派遣して、学生の研究指導、論文指導を共同で行う取組を支援。	1,500万円以内/年度	5年		
	国際共同研究事業	学術研究活動のグローバルな展開に対応するために、海外の学術振興機関との連携の下、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う共同研究を推進すると共に、若手研究者の研究機会充実化を支援。	500万～1,500万円以内/年度	2～5年	(246,529千円) 190,300千円	派遣37人 受入13人
	日中韓フォーサイト事業	日中韓の学術振興機関が共同で、世界トップレベルの研究拠点の構築を目的として実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。	5,000万円以内/5年間	5年	(95,865千円) 81,680千円	受入157人 派遣262人
	研究拠点形成事業	A. 先端拠点形成型 世界的水準の研究交流拠点の構築を目的として、世界各国の研究機関との協力関係により実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 アジア・アフリカ地域における諸課題の解決に資するため、アジア・アフリカ諸国の研究機関と実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。	2,000万円以内/年度 800万円以内/年度	5年 3年	(656,993千円) 666,914千円	受入85人 派遣369人
若手研究者研究機会提供(イベント型)	先端科学(FoS)シンポジウム	日本及び諸外国の新進気鋭の若手研究者を対象に、先端科学のトピックについて分野横断的な議論を行う合宿形式のシンポジウムを実施。	渡航費、国内交通費、滞在費	3日間	(57,137千円) 57,137千円	受入40人 派遣70人
	リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業	我が国の博士課程学生またはポストク研究者を対象に、リンダウ・ノーベル賞受賞者会議(於ドイツ)への参加を支援。	渡航費、国内交通費、滞在費、会議参加費	1週間程度	(11,756千円) 11,756千円	派遣14人
	HOPEミーティング～ノーベル賞受賞者との5日間～	アジア太平洋地域等の大学院生等がノーベル賞受賞者をはじめとした著名な研究者や同世代の参加者同士と交流を行い、将来の同地域の科学技術を担う研究者として飛躍する機会を提供。	国内交通費、滞在費、その他参加費等	5日間程度	(78,735千円) 78,735千円	受入74人
若手研究者研究機会提供(研究交流型)	海外特別研究員事業	日本の若手研究者(公的機関の常勤研究者又は公的機関の常勤研究職への就職を希望する博士号取得者)を2年間海外へ派遣。派遣希望者が申請。	渡航費・滞在費・研究活動費	2年間	(2,067,666千円) 2,077,535千円	派遣412名
若手研究者研究機会提供(グループの交流支援)	頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム	大学等研究機関が、海外のトップクラスの研究機関と世界水準の国際共同研究を行うことを通じて、相手側への若手研究者の長期派遣と相手側からの研究者招へいの双方向の人的交流を展開する取組を支援。大学等研究機関が申請。	渡航費・滞在費、国際共同研究に必要な研究費	1～3年間	(1,521,973千円) 2,029,973千円	派遣124件
外国人研究者の招へい事業	外国人特別研究員事業(一般)	海外の優秀な若手研究者(ポストク)を日本に招へいし、日本人研究者の指導のもとに共同研究に従事する機会を提供。	渡航費(往復航空券)、滞在費、渡日一時金等	12か月以上24か月以内	(3,562,719千円) 3,572,200千円	受入1,278人
	外国人特別研究員事業(欧米短期)	欧米諸国の優秀な若手研究者(ブレドク(2年以内に博士号取得見込)及びポストク)を日本に招へいし、日本人研究者の指導のもとに共同研究に従事する機会を提供。	渡航費(往復航空券)、滞在費、渡日一時金等	1か月以上12か月以内		
	外国人特別研究員事業(定着促進)	外国人研究者を大学等で常勤職として採用する取り組みを促すため、大学等で外国人研究者を招へいする機会を提供。	渡航費(往復航空券)、滞在費、渡日一時金等	12か月以上24か月以内		
	外国人招へい研究者事業(長期・短期・短期S)	海外の中堅、教授クラス又はノーベル賞級の国際的な賞の受賞者などを日本に招へいし、我が国の研究者との共同研究、意見交換や、講演等を行う機会を提供。	渡航費(往復航空券)、滞在費、国内交通費等	7日～10か月	(391,772千円) 351,778千円	受入384人
	論文博士号取得希望者に対する支援事業	日本の大学において学位取得を希望するアジア・アフリカ諸国の研究者を我が国に招致、あるいは日本人指導者を派遣する事により、論文博士号の取得を支援。	120万円以内/年度	原則3年	(125,373千円) 115,373千円	受入154人